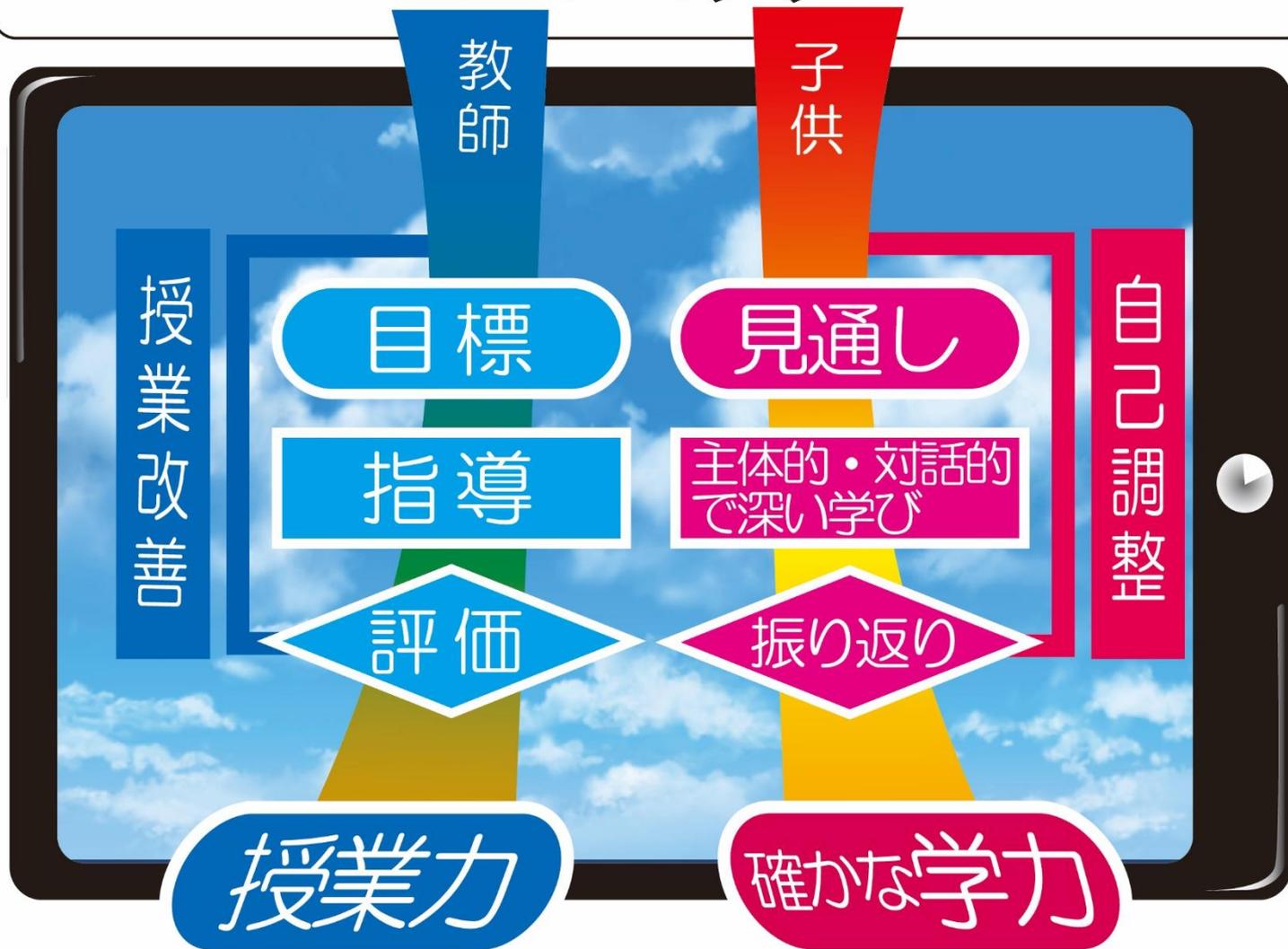


<1人1台端末時代の到来>

# 伝統ある愛媛教育と適切なICT活用の ベストミックス



新しい時代に求められる  
資質・能力の育成

未知の状況にも対応できる  
思考力、判断力、表現力等

生きて働く  
知識及び技能

人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力、人間性等

3つのあい

子供への愛 斬新なアイデア ICTの活用で

分かる授業 考える授業 伸びる授業 を実現!

# 「授業改善」は全ての教育関係者の普遍のテーマ

新学習指導要領においては、学習の基盤となる資質・能力「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」等の育成に向けて、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが示されています。

ここでは、外国語活動・外国語について、「言語活動」の充実に視点を当てた「授業改善」の例を示しています。

## 外国語活動・外国語の授業改善例

### ① 効果的なICTの活用を

ICTを活用することで、「言語活動」をより充実したものにすることが可能！

<例1> タブレットで学校行事の写真等をまとめ、友達に見せながら、思い出を英語で発表し、内容についてやり取りする。



<例2> ビデオ会議システムを活用し、他校の児童生徒と交流。近隣だけでなく、海外ともリアルタイムでやり取りする。



<例3> 言語活動で聞いた英文の理解を深めるための音読の練習。録音した自分の音読を何度も聞き直して課題等を把握し、改善に生かす。



<例4> タブレットで撮影した自分や友達の発表を振り返る。よいところや改善点等を客観的に把握し、よりよい発表となるよう工夫する。



「えひめ教職員ふれあい広場」や文部科学省HPに、活用事例が多数掲載されています。

【えひめ教職員ふれあい広場】 <https://teachers-net.esnet.ed.jp/>

【文部科学省】 [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/mext\\_00915.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00915.html)



### ② 育てたい子供の姿（資質・能力）を明確にして、活動内容の設定を



#### （英語で）何ができる子供を育てるか？

<例> 自分の考えや気持ちを、人前で堂々と英語で話すことができる子供の姿をゴールにしよう。

目標の設定

目標の設定は、大から小へ、一般的なものから詳細なものへ！

#### どんな学習活動を計画するか？

<例> 地元の観光地に関する写真等を見せながら、自分の考えや気持ちを相手に伝え、相互に意見をやり取りする活動を行う。

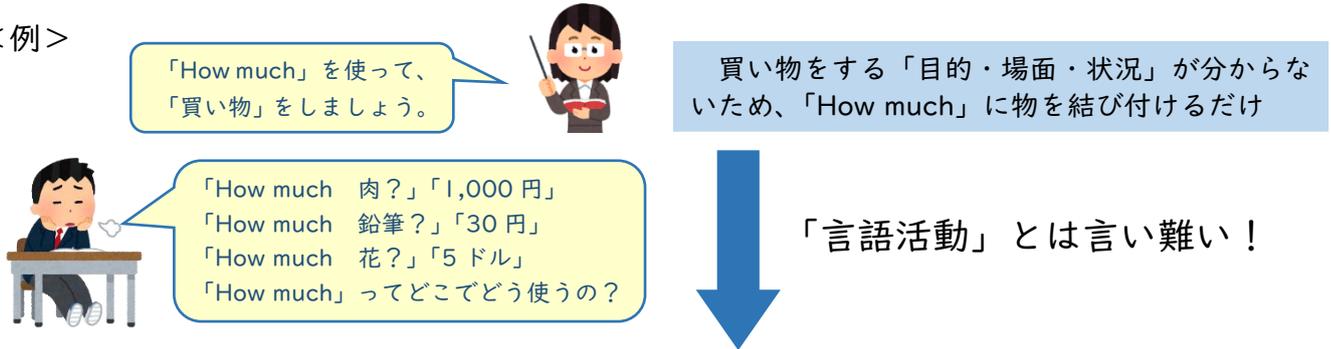


### ③ 「目的・場面・状況」を設定した「言語活動」を

外国語活動・外国語における「言語活動」とは、

「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動のことです！

<例>



「How much」を使って、「買い物」をしましょう。

「How much 肉？」「1,000 円」  
「How much 鉛筆？」「30 円」  
「How much 花？」「5 ドル」  
「How much」ってどこでどう使うの？

買い物をする「目的・場面・状況」が分からないため、「How much」に物を結び付けるだけ

「言語活動」とは言い難い！

**「目的・場面・状況」を明確に設定することが重要！**



日曜日、家族でBBQをします。予算3,000円で、食材の買い物を頼まれました。どんな物をどれだけ買いますか？

よし、場面が分かったぞ。どんな英語を使えばいいかな？家族が〇人だから…  
「How much… I want to buy …」

「何を話せばよいか」(内容) + 「どのような英語を使えばよいか」(言語材料)を思考・判断する

**「考えや気持ちを伝え合う」言語活動につながる！**

その人になりきる小道具、その気になる絵を準備することなども効果的！

### ④ 「言語活動」を充実させるためのアイデアを

「言語活動」を繰り返すだけでなく、適切な「気づきの場（時間）」を取り入れて！

活動 ➡ 「ハッとコーナー」 ➡ 活動 ➡ 「ハッ…」 ➡ 活動 ➡ …

「言語活動」の途中で、子供たちが気付いたり、ヒントを得たりするための「ハッとコーナー（仮称）」を設け、次の活動の質を高めていくことが大切です。

★ 子供たちが悩んだり気付いたりした様子を全体に共有し、「指導」しましょう。

- 発問例**
- ・ 言いたいけど言えなかったことは？
  - ・ 友達の発表を聞いて、自分も取り入れようと思ったことは？ など

## 愛媛県のICT教育の根幹を支えるCBTシステムの構築！

コンピュータ上で、テスト等の実施・採点・集計ができる **CBT (Computer Based Testing)**



**利点①** 瞬時に採点・集計でき、成果や課題の即時表示が可能！

➢ 教師も子供も課題を把握した上での授業展開が可能

**利点②** CBT化された問題等の活用による学びの自己調整が可能！

➢ 問題ごとに県平均正答率が分かり、子供一人一人が自分の結果と比較可能



本県では、定期テストや日々のドリル等をCBTで実施できる「**えひめICT学習支援システム**」を全国に先駆けて構築します！  
県独自の学習シート・教材も順次CBT化し、県内教職員が手軽にCBTを活用できるよう環境を整えていきます。



# 授業改善のための10のチェックリスト

～目標と指導と評価の一体化を目指して～



## ねらいを明確にした **分かる** 授業

- 子供の学習状況等を的確に把握し、単元（内容のまとめ）で身に付けさせたい資質・能力や授業のねらいを明確にして分かりやすく提示している。
- 子供の思考の流れに沿った単元構成を考え、単元（内容のまとめ）の指導計画及び評価計画を立案している。
- 主体的に学習に取り組む態度が身に付くよう、体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れた授業をデザインしている。



ICTを活用し、画像や映像、デジタルコンテンツ等を提示することは、**興味・関心を引き出す**だけでなく、**子供の個性や習熟度に即した学習**を容易に実現することにつながります。

## 子供主体の **考える** 授業

- 子供の思考を促す適切な発問や指示を行い、思考の流れが見える学習のまとめ方を工夫している。
- 子供の思いや考えを引き出すために、学習状況等に応じて臨機応変に対応している。
- 子供の考えが深まるよう、「聞いて考える力」や「書いて考える力」の育成に重点を置いている。
- 子供の考えが広がるよう、多様な教材（デジタルコンテンツを含む）を効果的に活用している。



CBTを活用することで、**時間短縮と良問の共有**が可能になります。また、画像や映像を用いた評価を行うことにより、**効率的で妥当性のある適切な評価**ができます。

## 確かな見取りによる **伸びる** 授業

- ねらいと連動した評価規準に基づいて評価の機会を計画的に設けている。
- 「指導に生かす評価」を充実させることで、授業中や授業後に、個に応じた指導や支援を適切に行っている。
- 授業と家庭学習がリンクするよう課題を工夫し、効果的にICTを活用するなど、家庭学習の充実を図っている。